

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873500775
法人名	有限会社 おきた建築
事業所名	ぐるうぷほーむ 砥辺
所在地	愛媛県伊予郡砥部町原町260番地
自己評価作成日	平成24年10月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年10月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

民家を改造したホームで、2年前に改築工事も行い、利用者様が穏やかにゆったりと過ごす空間が増えました。リビングには常に花を生けており、家庭的な雰囲気があり、笑顔の絶えないホームです。食事はすべて利用者様と一緒に手作りし、毎日利用者様と買い物に出かけます。地元で採れた野菜や地物の食材を多く取り入れ、とても好評です。医療面においても、日々の健康管理や観察を丁寧に行い、町内にある協力医療機関と密に連携がとれています。また、職員とも連携がとれ、働きやすく、利用者様とも良い馴染みの関係が築けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●利用者の希望を聞きながら、職員が献立を立てておられ、いただいた野菜を使ったり、毎日、利用者と一緒に近所のスーパーへ食料品の買い出しに行かれています。「野菜の皮を剥く」「切る」「盛り付け」等、利用者が得意なこと、できることにかかわれるよう支援されている。調査訪問時、利用者は、サトイモを切ったり、ポウルで具材を混ぜる等して、職員と一緒に食事の準備を行なっておられた。昼食時、少し遅れて席に着いた利用者へ、職員は、「お汁を温めましょうか」と、声をかけておられた。テーブルには、お好みで使えるように、醤油やドレッシングを用意されていた。3時には、ご家族からいただいたサツマイモを蒸かしておやつにされていた。昼食に付けておられたみかんがきっかけとなり、以前みかんを栽培されていたことをお話する方もおられ、お話が弾んでいた。夕食時には、晩酌を楽しまれる方もいる。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 ぐるうふほーむ 砥辺

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

渡部優子

評価完了日

平成 24 年 10 月 5 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域に密着し、家庭的な雰囲気の中で穏やかに生活できるように、また、その人らしさを大切に、家族様と共に支え合うことを踏まえた理念を掲げている。毎日の申し送りや、毎月のミーティング時には、支援の中で理念を共有し実践できるよう職員間で確認しあっている。職員の入れ替わりもあったので、更に理念が共有できるようにしたい。	
			(外部評価) 事業所は、「私たちは、住み慣れた地域の中で家庭的な雰囲気のもと、その人らしさを大切に、穏やかで安心した暮らしが継続できるようご家族とともに支援します。」と理念を作成し、玄関や居間に掲示されており、又、事業所が発行している通信にも毎回明示して、ご家族にも知ってもらえるよう取り組まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域とのつながりが強く、職員も町内や近郊の方がほとんどである。散歩に出たときなど、ご近所の方と挨拶を交わしたり、理容店等も地元を利用している。毎日の買い物も地元のスーパーを利用しており、顔見知りになっている。地元の小学校の運動会に使用するペーパーフラワーを作ったり、お祭り等にも参加し、地域とのつながりを大切にしている。	
			(外部評価) 地元に住む職員が多く、地域の行事等の情報もいち早く知ることができ、地域の文化祭やカラオケ大会等にも利用者と一緒に出かけられる。利用者の中には、地元で商売をされていた方もおられ、顔なじみの方も多く、買い物に出かけた時等には声をかけてくださることもよくあるようだ。入居後、近所の理容院を利用し始めた利用者は、続けて利用されており、お店の方と馴染みの関係となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域やご近所の方の相談を受けることもある。また、必要であれば、地域包括支援センターへつなげることもしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議ではさまざまなテーマで、事業所の取り組みを報告し、地域の方にも出席していただいている。ご家族の出席は決まった方になりがちであるが、入居者様を交えた運営推進会議を春にはお花見、夏にはいもだき、年末には餅つき大会という形で今年度も行なうことができた。</p> <p>(外部評価)</p> <p>年間6回開催する会議のうち、5回は、系列グループホームと合同で行っておられ、時には、お花見や餅つき等、行事と併せて開催されている。うち1回は、各事業所で行い、それぞれで外部評価の報告をされている。外部評価結果を見たご家族は、「グループホームの取り組みがよく分かりました。これほどまでにされているんですね」と、感心されたようだ。会議の場所は、事業所内では場所に制限もあるため、近くの集会所をお借りして行っておられる。すべてのご家族に案内を出しておられ、欠席されたご家族には、会議の資料や会議録を送付されている。地域代表の方とは、会議を通じて関係が深まり、夏には「スイカ狩り」に招いてくださり、たくさんスイカをいただいた。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議には必ず出席していただいております、何でも相談できる関係にある。</p> <p>(外部評価)</p> <p>月1回、介護相談員を受け入れておられ、人見知りする利用者の方とも、事業所での生活の様子等について楽しくお話をされるようだ。利用者は、相談員が帰られる時には、「また来てくださいよ」と、笑顔で見送っておられる。事業所の周辺の地域には高齢者が多く、職員は、普段のかかわりの中から「何らかの支援が必要」と感じるような方がおられた場合は、地域包括支援センターに連絡する等して連携されている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>身体拘束のないケアは実践できている。職員も十分理解している。玄関の施錠はしていないが、職員の配置、利用者様の状況により、出入りがわかりやすいように鈴をつける等している。外に出たくて玄関を開けて鈴が鳴った時は、制止することなく必ず職員が付き添い一緒に出ている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員は、研修で身体拘束について勉強されており、「身体拘束をしないケア」に取り組まれている。利用者の状態によっては、ベッド柵に鈴を付け、ご本人がベッド柵に触れると音が鳴るようにされており、職員は見守るようにされている。ベランダに面した居室の利用者は、自由に出入りして洗濯ものを干す等されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待があってはならないことは職員個々が熟知している。気持ちに余裕を持って利用者様と関わり、職員の行動や言動に気をつけ虐待があってはならないことは、常に話している。また、所内研修としてミーティング時に学び、再確認している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 代表や管理者は権利擁護や成年後見制度について理解しており、相談があれば適切にアドバイスを行うことができる。研修にも参加し、所内研修で勉強会も行ったが、新人職員が入職したため、再度所内で勉強会をして理解し合う必要があると考えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には必ず、重要事項説明書を読み合わせし、説明を行っている。疑問点に関しても丁寧に説明し同意を得ている。また、分からない事はいつでも、連絡して下さいと伝えている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族には意見や要望は遠慮なく伝えてほしいと常に話している。また、職員は来訪された家族に利用者の普段の様子を細かく話すよう心がけ、家族が思いや要望などを少しでも話し易いような雰囲気作りに努めている。 (外部評価) 勝手口にもスリッパを用意して、気を遣わなくてもご家族が来られるように配慮をされている。又、ご家族の来訪時には、お茶をお出しして、「ゆっくり座ってお話ができるような雰囲気」を作っておられる。運営推進会議時には、評価機関から年2回送付する「家族アンケートの集計表」をお見せして、ご家族に対して、「細かいことでも何でも言って欲しい」と話しておられる。ご家族からは、感謝の言葉が多く、意見や要望は聞かれないようだ。行事の写真等を載せ、2ヶ月に1回発行している「おきた・砥辺通信」は、ご家族に好評のようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>月に1度のミーティング時や、勤務中にも話すことは多々あり、職員の意見や提案を聞いて、できることは反映させている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>自己評価は、全職員で取り組み、管理者がまとめられた。管理者は、「すべての職員が自己評価に取り組んだことで、職員の思いも分かってよかった」と話しておられた。月1回の職員ミーティングは、すべての職員が参加されており、連絡事項を伝えたり、研修報告や業務改善、利用者のケアの見直し等について話し合われている。管理者は、「今後は、会議の司会進行を職員が順番で行なって、職員が意見を出したり、発言がしやすいようすすめてほしい」と考えておられた。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>職員にとって働きやすい環境や働きやすい条件となるよう、可能な限り努力している。</p>	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>研修の案内を必ず職員に知らせ、希望者は研修に参加できる体制にしている。また、今年度は緊急時の対応、感染症や食中毒について、接遇に関する所内研修を実施できた。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>代表や管理者は同業者と交流する機会があるが、現在は職員同士の交流はない。しかし、職員個人が研修等で知った方と情報交換することはある。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>本人が納得して入居できるよう、できる限り柔軟に対応している。また、入居後は笑顔を忘れず、穏やかに対応し、不安のない安心した生活ができるよう努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 不安に思っていることや、困っていることなど、また要望などは遠慮をせずに気軽に話してほしいと家族には常に伝えている。また、職員は常に笑顔を忘れず家族様の思いに耳を傾けられるように心掛けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者様がスムーズに入居できるようホームに通ったり、お試しでの入居も受け入れている。また、入居前には職員が訪問し、馴染みながら入居できるような支援も行っており、常に柔軟に対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 女性の利用者様には家事などを一緒にしていただいている。男性の利用者様には男性ならではの力仕事などを一緒にしてもらっている。共に生活しながら毎日色々な話をして楽しみながら生活している。また、利用者様から職員へ労いの言葉をいただいたり、冗談を言い合ったりして心通わせ、いろいろ学ぶことも多い。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者様を共に支えるために面会に来られた際には、状態を詳しく報告したり、家族様にお願いごとをするなどして、共に支え合える関係が築けるよう努力している。また、入所前の生活状況などを話していただいたりすることで、家族と職員の距離を少しずつ縮めていけるように心掛けている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族様にも馴染みの方にホームに面会していただくよう、お願いしている。友人が直接ホームに訪ねて来て下さることもある。できる限り、馴染みの関係が継続できるよう支援している。定期的に電話をかけてくれたり、手紙を書いて下さる方もおられる。 (外部評価) ご家族が迎えに来られ、利用者は、一緒に食事に出かけたり、ご自宅に戻り、洋服を選んで持って来られたりされている。利用者の身内の方が亡くなった際には、利用者もお通夜に出られるように職員が付き添われ、ご家族は感激されたようだ。利用者の幼なじみの方が2~3ヶ月に1回、手土産を持って尋ねて来てくれて、自室でゆっくり過ごされた後には、居間で他の利用者とお茶を飲みながらお話して帰られるようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員と一緒に会話を楽しんだり、歌を歌ったり、ゲームをしたりして、楽しい時間を過ごすようにしている。また、日々の生活の中で利用者個人の思いや感情を深く観察することにより、利用者同士のトラブルや孤立が起きないように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去時には今後も相談に乗れることとお話している。他のサービスへ移行する際には、詳しい介護サマリーを作成し、しっかりと申し送りしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者様との日々の関わりの中で(調理の手伝い時、入浴時、散歩時、買い物時、食事時等々)、思いや意向が汲み取れるよう努力している。また、家族様からも情報を得られるよう面会に来られた際には、いろいろ話を聞くようにしている。更に、様々な角度からコミュニケーションを多くとる心がけている。 (外部評価) 日々のケアの中から利用者個々の希望や思いを汲み取ることに努めておられる。ご家族の来訪時には、お茶を飲みながらお話する時間を作っておられ、利用者の現況について話し合ったり、これまでの暮らしぶりや好み等を聞き取っておられる。ご家族から、「音楽は得意ではないが、聞くのは好き」という情報を得たことから、ご本人がお好きな音楽を聞けるように支援をされている。アセスメントシートやフェイスシートは年に1回の見直しをされている。	利用者一人ひとりの生活のこだわりや暮らしの希望、大切にしていること等を探り、ご家族と一緒に利用者を支えていけるような介護計画の作成につなげていかれてはどうだろうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に利用者様、家族様よりアセスメントシートを元に、聞き取りを行い、今までの生活歴を職員全員が把握するよう努めている。また、ケアマネジャーや関係機関からも情報を得るようにしている。入居後も日々の関わりの中から、利用者様のお話を家族様に聞くなどしながら、これまでの暮らしの把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日の申し送り時には一人一人の状況を説明し、確認しあっている。また、ミーティング時には利用者様ごとの話し合いを持ち、全職員が現状を把握するよう努めている。更に、受け持ち担当を決め、利用者様ごとに密な関係が築けるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価)</p> <p>入居者様の生活や日々の関わりを踏まえて、まずご本人や家族様とお話しして、介護計画の内容を相談している。また、今までの評価や家族様、ご本人様と相談し予定したプランをミーティング時に報告し、それぞれの意見を反映して最終的な作成をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画は、ご家族や利用者のケアへの希望等もお聞きして、職員がミーティング時に話し合い、作成されている。「もっと歩けるようになりたい」という思いを持つ利用者には、訪問マッサージ等も採り入れて支援するよう、計画を立てておられる。介護計画の支援内容を記号で示し、介護記録にその記号を付けて実践内容を記録して、3ヶ月毎に評価・モニタリングを行うようになっている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>簡単な現状の記録だけになりがちであり、ケアの工夫等、詳しく記録できるように取り組んでいきたい。ケアプランのケア内容に即した記録は別の欄に印をつけるようにしている。バイタルサインや排泄の状態、食事量、水分量等に関する状況は毎日把握し、記録している。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>通院介助や入退院のお迎え、個別外出の支援、家族様が来られた時などは一緒に食事をしていただく等の、いろいろなケースや状況に対しては常に柔軟な対応がとれている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>ボランティアや民生委員、地域包括センターなどと協働したり、町内のイベントにも参加し、よりよい暮らしが継続できるよう努めている。地方祭の時などお神輿を見せてもらったり、地域のスーパーや理容室を利用している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 協力医療機関のみならず、希望される医療機関を受診できるよう常に支援しており、皮膚科や整形外科等、受診されている方がおられる。協力医院からは、月1回の往診があり、ご利用者様個々の健康状態を把握していただき、密な連携がとれている。	
			(外部評価) 協力医療機関が、月に1回往診に来てくださっている。専門医を受診される際は、ご家族が付き添っておられる。送迎のある整形外科へ通院される利用者もいる。歯科は、必要時に訪問診療を利用されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) ホームには看護師がおり健康管理や、急変時にも適切な対応がとれている。また、協力医療機関の訪問看護師や外来看護師とも連携がとれており、気になる事は気軽に相談できる関係であり大変心強い。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 協力医療機関での入院中は主治医、病棟看護師、家族様と密に連絡を取り合い、早期に退院できるように働きかけ、入院による利用者様のダメージを最小限にできるよう努力している。入院時には、ホームの職員も都合の付く限りお見舞いにも行き、情報の把握に努めている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化や看取りに関して指針を定めている。利用者様ごとに状況を見ながら、ホームがどのような支援を行えるのか、その都度ご家族様とも慎重に話し合いを重ねながら、検討し実施できるようにしていきたい。	
			(外部評価) 職員は、外部研修時に聞いて来られた「看取りについて」のお話を、運営推進会議時に報告されたが、ご家族は、「今は元気なからピンとこん」と言われたようだ。ホーム長は、「協力医療機関の24時間対応」「家族の夜間付き添い」「職員の体制」を整えば、「事業所での看取り支援を行うことが可能」と考えておられる。 「最期まで見てほしい」と希望されている利用者やご家族もあることを踏まえ、「終末期のあり方について」は、事業所でできること、ご家族ができること、医療機関が協力して下さること等を話し合い、利用者やご家族の希望に沿って、チームで支援できるような体制を整備していかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ミーティング時や所内研修で対応を学習している。新人職員も入職した為、あらためて急変時の対応や事故発生時の対応について勉強会を重ね、実践力を身につけて行きたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、4月と10月には消防署員に来ていただき、入居者様も共に避難訓練を実施し、消火器や通報装置の使用方法を学んでいる。また、近隣の方へは、日頃のお付き合いの中で、災害時に協力が得られるように働きかけている。今年度は、4月に避難訓練を実施した。10月末には今年2度目の避難訓練実施予定。利用者様個々にヘルメットも各部屋に設置した。職員の入れ替わりもあり、災害時に落ちついた対応が出来るよう、更に訓練や研修を重ねたい。 (外部評価) 年2回、消防署にも協力していただき、避難訓練を実施されている。訓練時、車いすを利用する方を職員2名で抱えて避難させることに時間を要したことから、その後、ベランダにスロープを整備された。又、月2回、「コンセントの点検日」を決めて、ほこりを掃除することを徹底された。災害時の備蓄として、カセットコンロ、水、カップラーメンを備えておられる。近々、「放火」を想定した避難訓練を実施する予定となっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩である利用者様には常に敬意を払い、さりげない介助(言葉遣いなど)を行い、嫌な思いや不安感を感じさせないように気をつけている。常に利用者様を尊重した声かけが行えるよう、ミーティング時に接遇に関して職員間で再確認している。また利用者様の個人情報については、外部に漏らすことのないよう、責任ある取り扱いをしている。 (外部評価) 職員は、「言われて嫌なこと・されて嫌なことはしない」ように、利用者にかかわることを心がけておられる。トイレ誘導や着替えを支援する際には、利用者に「～しますか?」と尋ね、利用者の意志を尊重して、無理強いしない支援に取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様に合わせた声掛けを行い、できる方には自己決定していただいている。ただ、意思表示が上手くできなかったり、理解が乏しかったりする場合も不安にならないように、職員が思いを察知してスムーズに自己決定ができるように努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) なるべく利用者様一人一人のペースを大切に、思いに沿った自由な生活ができるように、あくまでも利用者様を優先して支援している。希望は聞いているが、職員が買い物等で1名居ない時などは、ホーム内が手薄になるために散歩等は時間をずらすこともある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 日々の生活の中で、身だしなみが整えられるよう支援している。散髪も本人の希望に沿ってなじみの理容室に出かける方もおられる。いつでも着替えをしておしゃれが楽しめるようにしている。四季を通じて、清潔に心がけている。入浴後の手足の爪切りも気をつけて行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者様と毎日スーパーへ食材を買いに行き、おやつもなるべく利用者様に考えて選んでいただいている。時々是一緒に手作りしている。地元でとれた野菜を使って季節の物を取り入れ、彩りや栄養価も考えながら、楽しい食卓になるよう努力している。料理の下ごしらえや調理、盛り付け、後片付けなど、毎日利用者様と一緒に話しながら楽しく行っている。 (外部評価) 利用者の希望を聞きながら、職員が献立を立てておられ、いただいた野菜を使ったり、毎日、利用者と一緒に近所のスーパーへ食料品の買い出しに行かれています。「野菜の皮を剥く」「切る」「盛り付け」等、利用者が得意なこと、できることにかかわれるよう支援されている。調査訪問時、利用者は、サトイモを切ったり、ボウルで具材を混ぜる等して、職員と一緒に食事の準備を行っておられた。昼食時、少し遅れて席に着いた利用者には、職員は、「お汁を温めましょうか」と、声をかけておられた。テーブルには、お好みで使えるように、醤油やドレッシングを用意されていた。3時には、ご家族からいただいたサツマイモを蒸かしておやつにされていた。昼食に付けておられたみかんがきっかけとなり、以前みかんを栽培されていたこととお話する方もおられ、お話が弾んでいた。夕食時には、晩酌を楽しまれる方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 脱水には特に気を付け、1日の水分量が1200CC以上になるよう努めており、記録に残している。体重の増減や身体の状態を把握してバランスの良い献立をこころがけている。利用者様の身体の状態に応じた量や作り方を考えながら味付け、切り方などにも気を配っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 朝と就寝前の義歯のケアや歯磨きは声掛けを行い、同行しながら洗面所への誘導を行い、口腔ケアを実施している。自分では難しい利用者様に関しては、全面的に支援している方もおられる。昼食後に関しては、完全ではないので、今後はできるように徹底していきたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>排泄パターンの把握に努め、配慮のある声掛けにより、トイレ介助を行い少しでも失敗が減っていくように支援している。また、無理強いすることなく、トイレに行こうとされた時にさりげなく見守りや介助を行いつつ、不衛生にならないように気をつけている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>便失禁がある方について、職員で話し合い、「毎朝トイレに座る」ことを支援して失禁が減り、現在ではご自分でトイレに行くよう、状態が改善されたような事例がある。利用者の不安もあり、夜間は紙パンツを使用する方も、日中は布パンツで過ごせるように支援されている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>水分摂取に気を付け、繊維質の多い野菜類を献立に出すようにしている。また、個々の利用者様に合わせ、便秘解消の食材や果物を提供するなど、便秘改善に向け働きかける努力をしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>見守りをしながら半介助や、全介助で入浴される方がほとんどであるため、気持ちよく入浴していただけるよう、利用者様の好みに合わせて会話をしたり、一緒に歌を歌うなどして、楽しく入浴ができるように努力している。また、熱めのお湯が好みの方やぬるめのお湯が好みの方に合わせ、時間帯等も個々に応じた入浴の支援を心掛けている。曜日については、おおむね決めているのが現状であるが、変更は柔軟に対応している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所では、午後からは買い物等に出かける等、予定もあるため、午前中に週3回入浴することを支援されている。入浴を強く嫌がられたような方に職員は、利用者の後ろや横から介助する等、かかわる位置に気を付けて、利用者の羞恥心に配慮しながら支援され、現在では、湯船で「いい湯だな」と歌を口ずさみながら、お風呂を楽しまれている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>昼間はできるだけ活動的に過ごしていただき、夜間は良眠できるように買い物にお誘いしたり、散歩をしたりしながら、一人一人の生活リズムが継続できるように支援している。入居者様の生活リズムでお昼寝をされる方もおられるが、それは個人の意志を尊重している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 飲み忘れや誤薬がないよう職員2人で声を出して確認し合うようにしている。お薬手帳や説明書はいつでも確認できるよう、目につくところに置き、薬の把握に努めている。また、薬の内容等について変更があった際には職員に申し送りを徹底している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者様1人1人の趣味や役割など、できることを見つけるのは難しいが、毎日の料理の手伝いで笑顔が見られたり、お散歩等の外出で喜んでもらえたり、縫い物など一緒にしながら話したりと気分転換やストレス解消が少しでもできるよう努めている。また、毎夕食時に楽しみである晩酌をされる利用者様もおられる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎日の買い物には必ず、入居者様に声をかけてお誘いしている。職員の手配の都合や利用者様の身体の状況もあり、遠方への外出は十分にできていない。しかし近所の散歩や日向ぼっこ等は日常的に実施できている。お花見等は家族様や地域の方もお誘いして行った。 (外部評価) 気候のよい時期には、庭に出て過ごされたり、草むしりをされている。梅や桜の季節には、きれいに咲く場所を探して、お花を楽しみに出かけておられる。4月のお花見は、系列グループホームと合同で、ご家族も参加して楽しまれた。毎日、食材の買い物に出かけておられ、利用者はカートを押したり、荷物を持ってくださるようだ。利用者の希望に応じて、系列グループホームに入居しているご家族に会いに行けるよう支援されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現金を所持していてもきちんと管理できる利用者様は現在おられない。ただ、一緒に買い物に出かけると持っておられるお小遣いをもち、買い物をした後で職員が介助しながら支払うことができるように支援している。ご本人も買い物をしたという満足感があり喜ばれる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 現在は自分で自由に電話をできる利用者様がおられないので、希望された時には職員がダイヤルし、会話をさせていただいている。手紙については、現在は書かれる利用者がおられないため、支援できていない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>和風住宅を改築しており、家庭的な雰囲気がある。3年前の改築後からは更に居心地の良い空間で生活できるようになっている。リビングには常に花や季節感のある飾り付けを行っている。また、季節に応じて室温や光や音には気を配り、不快な空間とならないよう配慮している。手狭ではあるが、台所がすぐそこにあり、家庭の感じそのものである。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご家族が持って来てくださった菊の鉢植えやパンジーのプランターを玄関に飾っておられた。居間のテレビの棚には、小菊を生けて、イガ栗を飾っておられた。玄関と居間の間には、ロールカーテンを設置されており、冬場は、玄関の開閉時、冷たい風が入って来ないようにカーテンを下ろしておられる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者様が自由に過ごしていただける空間となっている。また、家族様が来られた時にはお茶を飲みながら一緒に過ごされることもあったり、気の合う利用者同士でお話されたりしている。孤立するようなことがあれば、必ず職員が入りお話しすることで淋しい思いをしないように配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>使い慣れた物や馴染みの品を持って来ていただけるよう、家族様に声掛けし、過ごしやすいお部屋となるよう努めている。持って来られる物が少ない利用者様には、担当者が買い物に行った際、小物などを購入し、お部屋を飾ったりしている。また、たんすの中の整理整頓も利用者様と一緒にするように心がけている。思い出の写真などもできるだけ、居室に飾るようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>馴染みの鏡台やたんすを持ち込まれ、鏡台の上には使用する化粧品を並べている方も見られた。ご家族の写真やご自分の写真を貼っている方もおられる。写真を見ては、「主人は優しかったんだよ」と、よく話してくださるようだ。ご家族からの母の日のプレゼントを大切に飾っておられる方もいる。散歩時や買い物帰りに、よくお話しする生まれ故郷の「障子山」の写真、職員が引き伸ばして居室に飾っておられた。ご自分で照明を点けたり、消したりできるよう、ひもを長くしている方も見られた。ご自分で雑巾がけ等して掃除する方もおられる。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>バリアフリーの造りではないが、廊下や階段など色々な所に手すりを設置し、利用者様が安全に移動していただけるよう配慮している。また、場所に対する混乱がないよう、トイレの表示や自室の名札などをつけて、分かりやすくしている。</p>	